

# 光円寺報

2011年 6月

〒679-2323 兵庫県神崎郡  
市川町甘地 384

後藤明照、由美子(惟蓮)

T&F 0790-26-0162

メール kouenji\_dayo

@nifty.com

<http://kouenji-hou.com/>

通信費年間1000円

世間虚仮唯仏是真

聖徳太子

厭離穢土 欣求浄土

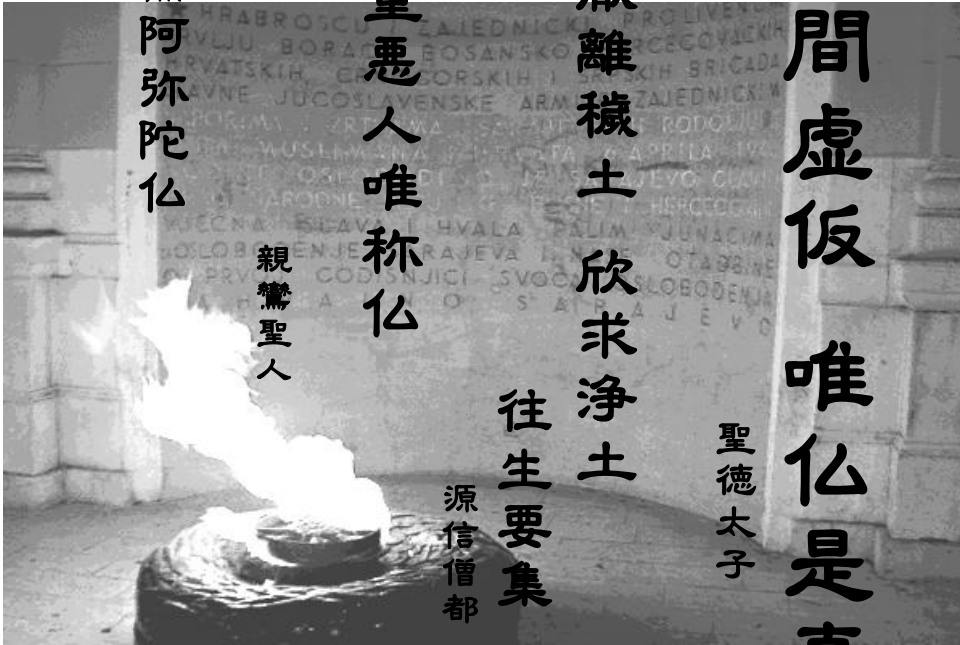
往生要集

源信僧都

極重悪人唯称仏

親鸞聖人

南無阿弥陀仏



## 仏教徒宣言(その九十)

昨日十一日で、東日本大震災から三カ月が経ちましたが、世界に名を轟かせてしまった原発震災は福島原発の事故は、収まりつつ有るのか？まだ危険な状況を孕んでいるのか？どのような方向に向かっているのか？東電・政府の会見からはなかなか窺い知れませんか。というのも、事故発生直後からそうでしたが「国難」と言いながら、この原発事故の現状を隠蔽し・過小評価し・事実を知らせなかったということが、少しずつ明らかになって来ています。例えば、地震の直後に最悪の炉心溶融が既に一号機で起こっていたことや、その後・二号機・三号機でも早い段階で炉心溶融が起こってしまったこと。これを専門家の小出裕章さんは「とんでもない、信じ難い状況」と言われています。そしてこの事故を起こした原発から放出された放射能が、どのような方向に拡散するのかを予想する「スピーディー」は緊急時迅速放射能影響予測ネットワークシステムの情報が有ったこと。その放射能被害に対しても「直ちに健康に被害はありません」とか「レントゲンやC・Tスキャン一回分の被曝」です。という同じ言葉が繰り返し流されていた事が思い返されます。しかし、この被曝という問題は、外部被曝も考えられると放射線の出ている所では日々・三百六十五日影響を受けるので、一回受けるという比較の問題では無かったです。当然、外部被曝も避けねばならないが、体内に取り込んでしまう内部被曝の方が深刻で、内・外の被曝は足し算で累積されて行くと言うことです。これらの事実を知ること、今ではこの言葉が空しく響いてきます。そして、このように発表される内容は「後出し、じゃんけん」見たいのもので、自分たちの都合の好いように

内容を抑えられ、小出しにされていて、しかもオブラートに包まれていたのです。そして国・東電・安全委員会、お互いが責任を擦り合い、誤魔化し・要領の良い振る舞いをする。そんな姿がテレビで毎日のように映し出されていました。

日本に住む私たちは、広島・長崎で被爆を経験しながら、その後の国策で核の平和利用と称し五十四基もの原発の有してしまいました。そして、経済至上・効率優先・利益を追い求めて止まない、私の欲望が人類史上二度目の「ヒバク国」にこの国をしてしまいました。そして、日々・被曝することへの不安と恐怖と悲しみ・怒りを抱えたまま悶々と生活することを余儀なくされています。しかし、私たちは、まだ原発に頼る生活を手放したくはないのです。そして、それを支えてきたのが「原発は必要で安全だ。だから、起きてはいけない事を起さない事にする」という根拠のない自己過信だったのです。それを大きな声・多くの声にする事に困って「本当はどうなのか」という「真実を知ろうとする声」を押し込めてきたのです。この内なる小さな声に耳を傾け始めたのが、小さな子どもを持った母親や、崩れた絶対に危機感を持った人たちでした。そして、この国がこのまま三・一一以前と同じでいいのかと考え始め、子どもの中のちや健康を守り、持続可能な未来を願う人が繋がろうと、昨日全国各地一三〇ヶ所又、地球規模で「脱原発」のデモやパレード、集会が一斉に行なわれました。それは、一人ひとりの人が自ら動き始め繋がりはじめたのがこの「脱原発」の一つのうねりになったのです。「如」からの「はたらき」なのかも知れません。その人たちの繋がりたい、繋がろうとする行動が、日常に埋没しようとする私にどう生きるのかと、問いかけています。

南無阿弥陀仏

秋明照

## 旗と提灯



定外に遅くなりましたが、親鸞さんの七百五十年の御遠忌という記念すべき年に、後世に受け継がれるであろう一つの形ある物「草朋会・同朋会の旗」と「提灯」が光円寺にやって来ました。

それはそれを求めた「願い」が形となったものです。光円寺に関わる

やっと本山から届きました。

昨年の八月一日の「〇講座」のご苦労さん会に話が出てから十ヶ月。

御遠忌や震災で、想



人々にはたらく、阿弥陀の浄土からの願いです。

旗は「法幢」そこに仏法があるという目印です。そして提灯は足元を照らす。歩を運ぶ人を導くはたらきをします。この「二つのアイテム」が私たちを導いてくれます。

共に歩みましょう。



提灯掛け 有川武男さん作